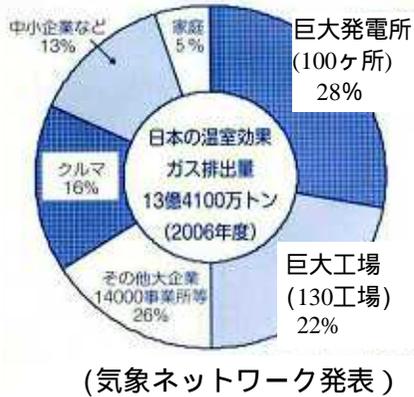


「アツーイ！ この職場なんとかして！」

会社は職場環境基準(夏場は28 以下)をまもれ！



三十七度を越える猛暑日がつづくなか、電力オーバーを理由にエアコンが切られるなど、異常な暑さの中で、「これはたまらん！、早くなんとかして」の声があがっています。

三十七度を越える職場も

京都製作所では環境対策が後回しにされ、「今年は今も三十七度にもなった頭がボー」として仕事に集中できない。「空気の循環が悪く、場所によって温度がぜんぜん違う」「設備のために、夏でも二十度、外気との温度差が大きすぎて、肺炎で入院した人もいます」など環境に対する不満が続出していきます。

猛暑日にエアコン切る非情

さらに、「契約電力量をオーバーするので、エアコンなどの節電に協力を」の放送が毎日流されます。その度に、設定温度が上げられ、エアコンが止められるなどで、室温が外気温と変わらない職場もでていきます。会社からは異常な事態の下でも、今後の対策や、なぜこのようになったかの説明もありません。

なかなか職場の声が届かない

ある職場では、「暑いからなんとかして」との切実な声に、「暑いけど頑張れ」と言うのみ、「せめて扇風機をつけて」といつても「見栄えが悪い」と拒否する始末です。

労働者の声がかされた職場に

あまりかねて労働組合にかけこんだら、やっと小さな扇風機を三人に一台追加しました。「生産は日産六千台から七千台に引き上げられ、汗だくでしごととしているのに、会社は労働者の体のことを、考えていないのか」と怒ります。

体感温度は個人差があり、エアコンの風がきらいな人もいます。これらも十分考慮した職場環境にしていくためには、みんなが率直な意見を出し合う場が必要です。そのために、会社は安全ミーティング等で意見を聞き、労働組合も職場集会などで意見を聞いて、職場懇談会や安全衛生委員会などに反映させていくことが大切ではないでしょうか。

会社は職場環境に責任を

職場環境を改善することは企業の社会的責任(CSR)の一つです。会社は二〇〇七年版CSRで、法定を上回る職場環境基準の達成・維持を

をかかげ、当社では職場を生活の場と捕らえ、人に優しい職場環境の整備と、障害者や高齢者などにも配慮した快適な空間作りに取り組んでいます。……とうたっています。しかし、京都の現状はこの目標から大きく遅れています。



省エネ工場の推進を

地球温暖化を防止するうえで、CO2の大半を排出している巨大発電所・大企業の責任は重大です。しかし、京都では古い、効率の悪いエアコンが使われていたり、建物などの省エネ化も進んでいないといえませんが、

太陽光発電システムの活用も

さいわい、京都は、太陽光発電システムを生産している場所です。今こそ、このシステムを大いに生かすときではないでしょうか。これが、太陽光発電の威力を社会にアピールする機会にもなり、昼間の電力使用量の緩和や、エコ対策と一石二鳥の効果があがるのでは

ないでしょうか。こうして働きやすい職場環境を作ってほしいものです。

三菱電機(京都)労働者懇談会
 連絡先 重本 信子
 ・Fax 075-922-2369 2008.7.30